下諏訪中学校南小学校区

コミュニティスクール

なぎがまCSだより

第17号
2022年3月8日発行
発行責任者　本山 公之
編　　集　広報部
なぎがまCS事務局
下諏訪中学校　☎27-3000
下諏訪南小学校　☎27-5000

学校支援部ルポ　その一

見て気づいて考える力を育てる

地域のヒトから学ぶ　南小クラブ活動

今年度も南小高学年を対象とした年6回のクラブ活動が実施されました。14のクラブがありますが、講師は学校の先生方だけではなく、今年は10のクラブはその道に精通した外部講師の方々にお願いしました。

今回は、工業コマクラブと絵手紙クラブの講師をご紹介致します。

スゴイぞ！

工業コマクラブ

講師　安 英輔さん

子どもたちは、コマ作りの前に「サイコロ作り」に挑戦しました。

紙に印刷された平面図を切って貼るという単純な作業を繰り返し、立方体のサイコロを作りました。

講師の安さんは、『このサイコロ作りで、子どもたちは、見て気づいて考えることを学びます。例えばハサミで紙を切る作業でも、ハサミを動かすのか、それとも紙を動かすのか考えます。また、ノリを塗る作業でも、重ねる方に塗るのか、それとも反対側に塗るのかなど、普段何気なくする動作でも、見て気づいて考えるポイントが隠されているんですよ。』と安さんは話してくださいました。

その後、「コマ作り」になると、丸や四角に切った透明のふたやキラキラ折り紙、厚紙を組み合わせて色を塗り、軸には楊枝や串、ボルトなどを使って、思い思いのコマに仕上げていました。子どもたちはできあがったコマを見せ合ったり、どちらが長く回るか勝負したりして楽しそうに遊んでいました。

子供たちと同じ目線でコマづくりを教える安さん

安さんは、『どうやったらイメージ通りの物が作れ、どう工夫すればよいかなど、興味を持ち、自分で考えたり悩んだりすることを通して思考力、判断力、表現力を養ってほしい。』と話してくださいました。また、『分からない時には、少しだけアドバイスすることで、さらに自分で考え工夫し、意欲的に取り組めるようになるのは講師冥利に尽きますね。』とも話してくださいました。『物を作るうえで、考える楽しさや難しさを少しでも感じてもらえたら嬉しい。』ということでした。

サイコロ作りを指導中の安さん

届くのが楽しみ♪

絵手紙クラブ

講師　河西 興人さん
助手　芳沢喜代子さん

ひときわ静かな教室で講師の河西さんの言うことに耳を傾ける子どもたち。この日は「マツムシソウ（松虫草）」を描きました。二年草で霧ヶ峰辺りで7月～10月頃に咲く花だそうです。

子どもたちにお手本を描く河西さん

子どもたちはお手本を描く河西さんの回りに集まり、筆の動きを真剣な表情で見ていました。

上手に描くコツは、『濡らした筆をよく絞り、筆先をしっかり立て、花の中心から描くこと』と子どもたちに教えてくださいました。アドバイスを受けた子どもたちは自分の席に戻り、お手本を見ながらマツムシソウを描きはじめました。

講師のお手伝いをされている芳沢喜代子さんもこの日は、河西さんと一緒に子どもたち一人ひとりに声をかけながら指導されていました。

芳沢さんは『子どもたちはみんな熱心で描くことに集中している。描くものをどう見るか、視点が変わればそれぞれ個性のある絵になる。子どもたちは上達が早くてすごく上手です。』と笑顔で話してくださいました。

また河西さんは『学校の書道では習字、美術では洋画を描くことがあると思うが、この絵手紙は、習字の筆とも洋画の筆とも違う筆で描く。また色の微妙な濃淡が大切になる。子どもたちにはこの機会に筆で絵を描くことに親しんでほしい。』と話してくださいました。

4年生の女の子は『お花を上手に描けたから、この絵手紙はおばあちゃんに送りたい。』と話してくれました。絵手紙が届いたら、おばあちゃんはきっと喜んでくれるでしょうね。

子どもたち一人一人に丁寧に指導する
河西さんと芳沢さん

学校支援部ルポ　その二

地域のヒトから学ぶ　下中家庭科ミシン指導ボランティア

講師　中村　精子さん

下中３年生の家庭科でミシンを使ってトートバックづくりの授業があり、講師の中村精子さんにお願いし、子どもたちにミシンの使い方、縫い方などを指導していただきました。中村さんは、北小の子どもたちにもミシンの使い方をご指導されていらっしゃいます。

この日も慣れないミシンを使ってそれぞれの生徒がオリジナルのトートバックづくりに取り組んでいました。

中村さんは、『今は生徒一人ひとりに一台のミシンがあっていいですね。昔と違い、ミシンの性能がよく調子がいいので作業もスムーズにいきますね。たまにミシンの調子が悪くなると作業が止まってしまい、子どもたちが困っている時にお手伝いができることがとても嬉しく思います。』と話してくださいました。

ミシンの指導をする中村さん

ミシンで縫う前に、まずはボビンに下糸を巻きつけ、上糸をいくつか決められた場所を通しながら、最終的にミシン針の先に通したら準備完了ですが、この作業が大変で、特に男子生徒は悪戦苦闘していました。

生徒たちは、うまくいかずに何度もやり直したり、友達に助けてもらいながら必死にミシンと向き合っていました。

『もしかしたら手縫いの方が早いかも…』と独りごとを言って笑顔で取り組んでいる生徒もいました。

今回、中村さんに教わった感想を生徒たちに聞いたところ、『中村さんは一から丁寧に教えてくれてよくわかりやすかった。中村さんのおかげでミシンが楽しくでき、作業がかなり進んだからうれしかったです。』また別の生徒は『ミシンの授業だといつも家庭科の先生が忙しそうで質問する時間がないんだけど、今日は中村さんに質問できたからよかったです。』と話してくれました。

マチ針の仮止め指導中

中村さん、お忙しいところ、ミシン指導にお越しいただき本当にありがとうございました。またぜひ子どもたちのためにミシンを教えていただきたいと思います。

第39回下諏訪町　保・小・中・特・高　健全育成研究集会

地域とつながり楽しく学ぶ子どもたち

GSM 元気な しもすわっ子 学びの発表会

11月27日（土）「元気なしもすわっ子学びの発表会」が行われ、町内の保育園、小学校、中学校、高校、養護学校それぞれの学習発表がありました。

南小5年3組の子どもたちが、総合的な学習の時間（みずべの時間）のテーマ（①願いが叶う万治の石仏　②諏訪湖のいきもの　③下諏訪の歴史　④下諏訪の魅力　⑤諏訪湖のごみ）で発表しました。それぞれのグループが町中を探索し撮影した映像を使って下諏訪町の魅力をコマーシャルメッセージとして表現した素を使って制作した「下諏訪町の魅力を伝えるコマーシャルビデオメッセージ」を発表しました。

全校児童の一人ひとりに町から貸与されたタブレットを使って、5つの発表会終了後に感想を聞くと、『制作しているときは、ユーチューバーになったみたいですごくたのしかった。』『自信を持って発表できたことはずごくよかったと思います。』と話してくれました。

担任の中村聖祥先生は、『子どもたちは、撮影から発表までグループで協力し合い、楽しみながら制作に励んでいました。タブレットを使った探究学習を進めていく上でもいい機会になったと思います。』と話してくださいました。

南小５年３組の皆さんの発表の様子

編集後記

コロナ禍も2年が経ちます。私がなぎがまコミュニティスクールに携わらせていただくようになった5年前では考えられないことが2年間続いています。マスク着用、定期的な換気と手指消毒、大きな声を出さない、給食時は黙食、オンライン授業など、大きく様変わりした生活様式に、子どもたちは大きなストレスを感じていると思いますが、その順応性に感心させられます。

学校行事は密を避けるためにオンラインや分散といった方法に変わり、地域と関わる行事はほとんどが中止になってしまいました。集会やグループワークなどみんなで集まる機会がなくなっている今だからこそ、人との対話の大切さを改めて気づかされます。子どもたちも友達はもちろん、地域の人と触れ合うことの大切さを感じていると思います。

私はリンカーン（元米大統領）「Where there is a will, there is a way」～意志あるところに道は開ける～という言葉が好きです。コロナ禍であっても子どもたちには夢や希望に向かい、強い意志で挑戦してほしいと思っています。そして近い将来、子どもたちがマスクをとって大きな声で笑い会える日が来ることを心より願っています。

これからも広報部の活動にご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。5年間本当にお世話になりました。

なぎがまCS広報部長　堀内知里